

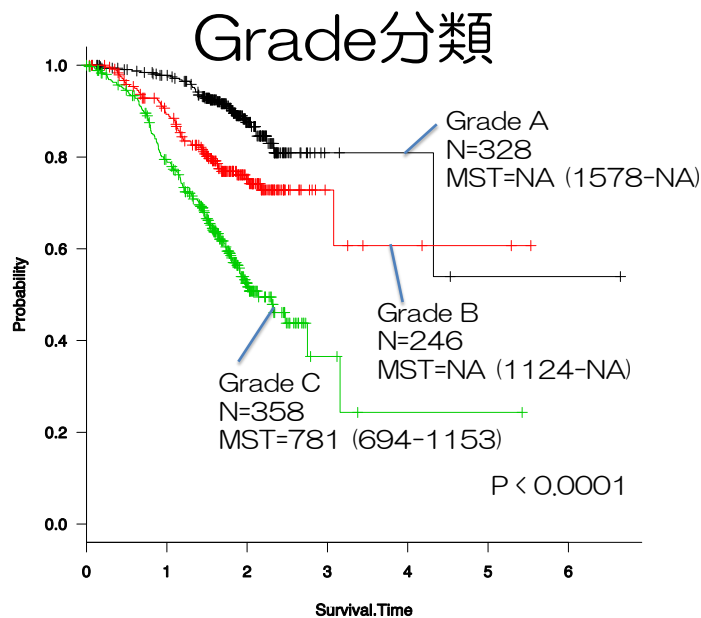
大腸癌肝転移プロジェクト委員会議事録 N0.9

2013. 07.04

<活動報告>

1. 2007年の1304例の大腸癌肝転移のデータを再度分析した。

2007年の1304例で解析可能な932例でのGrade分類と予後



Grade 分類を超える分類が可能であるか、検討し、その妥当性が認められた。データの欠損値が多く、予後解析のために項目を絞って再度データを集積し、データのブラッシュアップを行い、データを再度分析した。

2. 2013年6月の日本肝胆膵外科学会理事会で肝転移データベースの運用につき承認された。運営経費についても大腸癌研究会と合同でサポートする。

3. 全国大腸癌肝転移データベース委員会を組織する。

全国大腸癌肝転移データベース運営委員会名簿(案)

委員長	高橋慶一	がん・感染症センター 都立駒込病院外科
副委員長	山本雅一	東京女子医科大学消化器外科
委員	別府 透	熊本大学消化器外科
委員	長谷川 潔	東京大学肝胆膵外科
委員	本田五郎	がん・感染症センター 都立駒込病院外科
委員	固武健二郎	栃木県立がんセンター外科
委員	板橋道朗	東京女子医科大学外科
委員	橋口陽二郎	帝京大学外科
事務局	山口達郎	がん・感染症センター 都立駒込病院外科
事務局	小林 信	がん・感染症センター 都立駒込病院外科

4. 2013年7月以降に、肝転移データベースの登録事業を開始する。
5. 第1回合同研究会を2013年内に開催する。
6. 2007年の集積データをさらにブラッシュアップして検討した。
- 1) Grade 分類の再現性が示された。
 - 2) 加藤班（1992-1996）の肝転移のデータに比べ、2007年のデータは各 Grade で予後が改善している。
 - 3) Grade C に予後不良群があり、GradeCDE の細分類が必要。
 - 4) スライドデータを PDF ファイルで提示する。